平成２１年度病害虫発生予察指導情報
対象病害虫：イネ・いもち病（No.４）

平成２１年８月１２日
鳥取県病害虫防除所

１　情報の内容

８月１１日現在における県全体の葉いもち発生ほ場率は、３１．２％と平年並（平年：３４.７％）の発生となっている。しかし、病勢が終息していないほ場が多く、また、今後も本病の発生に好適な気象条件で経過することが予想されていることから、防除の徹底が必要である。

２　葉いもちの発生状況など

（１）県全体の葉いもち発生ほ場率は、７月３１日現在では１３．２％であったが、その後の発生拡大により、８月１１日現在では３１．２％で平年並（平年：３４.７％）の発生となっている。また、中間地～山間地の一部で認められていた多発生ほ場では、病勢は終息していなことから、今後とも注意が必要である。

（２）全体的には上位葉における発病はほとんど認められておらず、下位葉の停滞型病斑の発生が主体となっている。しかし、本年は下位葉の停滞型病斑においても胞子形成が認められていることから、病勢は終息しておらず、穂いもちの伝染源になり得る状況となっている。

（３）８月７日発表の向こう１か月の気象予報によると、前半は平年に比べて晴れの日が少ないと予想されており、今後もいもち病の発生しやすい気象条件が続くと予想される。

３　防除上注意すべき事項

（１）葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、出穂が遅い中生品種等で葉いもちの発生が多い場合には、治療剤、予防・治療剤を用いて防除を行う。また、本年は下位葉の病斑でも胞子形成が認められていることから、注意が必要である。

（２）主要品種であるコシヒカリでは、穂ばらみ期～穂揃い期を迎えており、穂いもち防除時期となっている。穂いもちは発生してからの防除は困難であるため、葉いもちを抑制するとともに、穂ばらみ期及び穂揃い期の２回、粉剤、水和剤などによる防除を徹底する。

（３）上位葉における発病が多く、穂いもちの多発生が予想される場合は、傾穂期の防除を追加する。

（４）降雨が続く場合は、雨の止み間をみて防除を行う。この場合、散布後約３時間経過すれば、降雨の影響は少ない。

（５）防除薬剤は、病害虫発生予察注意報第３号（８月３日発表）を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。